



豊後大野市立緒方中学校学校だより

青雲の大志

令和5年10月16日
NO.18 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

勉強の秋 研究授業で 学びの姿を見ていただきました

文化祭の準備、県新人戦に向けた部活動、駅伝の練習等、生徒も教師も大忙しのこの頃です。そのような中ですが、10月6日には、山下教諭が2年生の社会科、13日には、木元教諭が道徳の研究授業を行いました。いずれも時間をかけて練り上げた指導案による授業でした。生徒もそれに応えて、**友だちと意見を交わしながら思考を深める授業**となりました。



社会科は、江戸幕府が財政立て直しのために実施した改革や政治についてまとめ、政策の評価を行う授業でした

道徳では「本当の思いやり」について考えました



スマホやタブレット リスクを知ろう

10月2日にNTTドコモさんによる「スマホ・携帯安全教室」を実施しました。情報技術の活用に係る様々なトラブルを具体的に示していただきました。生徒は、リスクを認識し、上手に活用することの大切さを理解したようです。

が、ゲームやLINEを止められず、夜更かしをしている人、オンライン上で見知らぬ人と友達になっている人などがいると聞きます。「わが子だけは大丈夫」と考えるのは危険です。**どんなサイトを観ているか、どんな人と繋がっているのか、何時間使っているのか**、といったことに注意を払い、ご家庭でルールを確認してください。

家庭学習、十分ですか？

「青雲の大志NO.13」でもお知らせしたように、本校の生徒は、**家庭学習の時間確保に課題**がある生徒が少なくありません。学校でも家庭学習の計画を立てる取組を行ったり、教科によっては宿題を増やしたりするなど、取組を進めていますが、ご家庭での支援も必要です。

なぜ、授業だけでは足りないのか

例えば、数学についていえば、計算のきまり、公式を覚えているだけでは、学力アップにはつながりません。「知っている・覚えている」ことを「実際に使える」ようにするには、「**たくさんさんの練習**」が必要となります。分かったつもりだったのにテストになると出来ない…それは、実際に問題を解くという練習が足りていないからです。もちろん授業の中でも練習はしますが、それだけでは、中学校の学習には対応できません。

まずは、自主的な家庭学習の習慣化

「小学校の時は、学童保育で宿題を済ませていたから、家で勉強したことはありません」という生徒の声を聞きました。そのようなお子さんに急に「1年生は2時間、2年生は3時間」といった目安を示しても難しいかもしれません。まず「学年+30分」を目標にしてみましょう。**学習習慣を身に付けさせるために、ご家庭でも環境を整えてください。**例えば、

- ・ **決まった時間に勉強を始められるように**、夕食や入浴の時間をある程度規則正しいものにする
 - ・ **スマホやゲームの誘惑を取り除く**
 - ・ **がみがみ言い過ぎず、終わったら褒める**（そのためには**見守ることが必要**です）等
- 家庭学習の習慣をつけるには時間がかかります。



毎日の丁寧な暮らしの中で身につくものだと思います。根気よく声掛けをしたり相談に乗ってあげたりしてください。

3年生は放課後ランチルームで入試に向けた学習をしています。この日は迫村繁樹先生が教えてくださいました。